

## 第6回しあわせ研究所 シンポジウム報告

研究員 本多 勇



シンポジウムの様子▲

しあわせ研究所第6回シンポジウムは、「通信教育部2021年度シンポジウム」と共催のかたちで、2022年2月26日（土）の午後（13:00～16:30）に開催されました。有明3-301教室から、Zoomウェビナー配信で行いました。

全体テーマは「持続可能性 2030年の未来に向けて ～「しあわせ学」の前進～」といたしました。

西本照真学長・しあわせ研究所所長の開会挨拶でスタート。

第1部は、一方井誠治先生（しあわせ研究所研究員、大学院通信教育部環境学研究科研究科長・教授）による特別基調講演「幅広い視点から改めて持続可能性とは何かを考える」でした。先生ご自身の環境問題への関心の基盤になっていることから始まり、「強い持続可能性」と「弱い持続可能性」のアプローチについて提示がありました。現在の世界社会は、それ以上壊れてはいけない環境保全のレベル「プラネタリー・バウンダリー」を超えていることも示されました。そのうえで「強い持続可能性」の考え方の必要性を提起されました。

休憩をはさみ第2部は、昨年度のしあわせ研究所シンポジウムを基に出版されたし

あわせ叢書『病災害の中のしあわせ』について西本照真先生から紹介があり、一ノ瀬正樹先生（しあわせ研究所主任、大学院通信教育部人間社会研究科兼担教授）から「しあわせの二極性」について講演していただきました。

そして第3部は、「しあわせとSDGs」をテーマにシンポジウムを行いました。シンポジストは、一方井誠治教授、西本照真所長、一ノ瀬正樹主任、そして野口扶美子先生（工学部／通信教育部非常勤講師、国連サステイナビリティ高等研究所リサーチ・フェロー）に加わっていただきました。コーディネーター（進行）は本多が担当いたしました。

最後に、石上和敬先生（副学長、しあわせ研究所副所長）に閉会の挨拶をしていただきました。

終了後、別のZoomミーティングで、「語り合い・分かち合いの会」として、『いつでも、どこでも、学び続けるために ～通信教育部交流も兼ねて～』を約1時間開催いたしました。シンポジウムにアクセスしていただいた通信教育部学生・院生と通信教育部専任教員のほか、一方井教授にも加わっていただき、シンポジウムでの議論についてさらに理解を深めることができました。

私たち一人ひとりの生き方、社会の向き合い方について改めて問われ、思いを新たにす良い時間となりました。また、ウクライナで勃発した戦禍への思い、平和の重要性についても共有することができました。